



平成22年(2010年) 11月26日発行

ふくしまファンクラブ

会報

第15号



↑日本唯一の茅葺屋根の駅舎「湯野上温泉駅」とA1ZUマウントエクスプレス。



←猫道に徹しているばす駅長を一度は振り向かせたい!



←目の前に広がる田園風景が田舎の風を運んでくれる。



←ひまわりとコスモスの中を走るトロッコ列車。(養鱒公園～会津田島間)



お話を伺った 玉川係長

会津エリアへのおでかけは

『ゆったり会津東武フリーパス』が便利です。今までの自由な下内自エらに4日間選べます。料金等詳細は下記窓口まで。

全国に名を馳せる会津鉄道の名物駅長さんと言え、芦ノ牧温泉駅のねこ駅長の「ばす」。元々駅に住みついて猫を、地元の子どもたちがアニメのトトロの

名物駅長さん

浅草・新宿から最短3時間59分で会津若松市へ到着します。この首都圏へのアクセスの良さも魅力の一つと言えます。

会津鉄道とは

福島県会津地方の中部～南部を縦断する総距離数57.4kmのローカル線です。昭和62年7月から営業を開始して以来、地元の貴重な足として、また雄大な自然を満喫する観光列車として多くのお客様を運んでいます。また東武鉄道～野岩鉄道～会津鉄道～JR只見線と相互運転することにより

心つながる素敵沿線

線路沿いには、日本の原風景の田園や秘境のような溪谷が目の前に広がり、自分分がまるで、自然と一体になっているような錯覚さえしてしまいます。また福島を代表する観光名所でもある「大内宿」や「塔のへつり」へのアクセスも良く、四季折々の素敵なイベントも用意しています。都会の雑踏を離れ、のんびりと電車で揺られて旅をしてみませんか？



中身はゼリーのような、トロリとした舌触り



あんぽ柿

12月から2月に旬を迎える「あんぽ柿」。10月下旬頃から柿を収穫し、皮むき・硫黄による燻蒸(くんじょう)・乾燥など、さまざまな行程を経て作られています。今回は、生産量全国第1位を誇る「あんぽ柿」をご紹介します。

◆ あんぽ柿の由来と普及 ◆

江戸時代の宝暦年代に、上五十沢峰部落(現在の伊達市梁川町の五十沢地区)の七右衛門という人が柿の木を持ってきて植えたのが、この地区の柿栽培の始まりと伝えられています。

また、あんぽ柿の名前の由来ですが、皮をむいた柿を天日に干すことから「天干柿(あまぼしがき)」と呼ばれ、それが明治時代に「あんぽ柿」と呼ばれるようになったといわれています。

五十沢地区は、蚕を飼い繭を売って生活していましたが、大正9年の繭価格の大暴落により、借財がかさみ、返済のため副業を開発しなければならぬと、あんぽ柿改良の研究が始まりました。

その頃、アメリカでは干しぶどうの乾燥に硫黄燻蒸を施しているということを知り、それを柿に応用しようと地元の人達が試行錯誤し、大正12年11月には五十沢あんぽ柿出荷組合を設立、その後は東京などにも出荷されました。

また、昭和4年には、五十沢村農業公民学校に赴任した佐藤昌一先生が、自分で燻蒸箱を作り、研究を重ねました。また、あんぽ柿についての小冊子「あんぽ柿と硫黄燻蒸」を作り、村内や希望者などに配付しました。さらに、学校や農家など、寸暇を惜しんで指導にあたりました。

その他の人々の努力もあり、村内や隣村に普及するようになり、冬期間の労働をあんぽ柿生産に充て、出稼ぎをする人が少なくなりました。



①お話を伺ったJA伊達みらい指導販売課の須田和弥係長(右)と佐々木悠介さん(左)。②秋になると、柿がたわわに実る風景が広がる。③あんぽ柿に使われる柿は、蜂屋柿が中心。④縄に吊した柿。冬の風物詩。



福島県ブランド認証 あんぽ柿
(平成22年2月25日認証)



(伊達みらい農業協同組合)
電話 024-575-0113
伊達市保原町字七丁目33番地3
HP: <http://www.jadatemirai.or.jp/>
E-mail: mirai@jadatemirai.or.jp

(伊達果実農業協同組合)
電話 024-582-2175
伊達郡桑折町大字上郡字堰上18
HP: <http://www1.ocn.ne.jp/~dateka/>
E-mail: date-ka@atlas.plala.or.jp

◆作業工程◆

10月下旬頃から収穫が始まり、追熟の後、皮をむきます。現在は機械化が進み、大規模な農家では、1000トンほど柿をむくところも

あるそうです。

その後、縄に吊し、小さな部屋に入れて硫黄を燃やし、燻蒸を行います。これにより、あんぽ柿独特の柔らかく、きれいなアメ色が出ます。燻蒸は、殺菌や酸化防止などの効果もあります。

◆最高のあんぽ柿◆

毎年、「福島県果実品評会」が行われ、優れた品質のあんぽ

さらに、約30〜50日間、自然乾燥などで熟成され、じっくり甘みを引き出します。冬の乾いた風と阿武隈川からの適度な湿度により上質な食味のあんぽ柿ができます。最後に、一つ一つ仕上げを行い、丁寧に包装された後、出荷されます。

柿を生産した農家を表彰しています。

品評会で金賞を受賞した農家のあんぽ柿は、一昨年から今年の1月まで3回皇室に献上されています。また、金賞を受賞した農家のこだわりのあんぽ柿は、「伊達のあんぽ柿」として限定販売されており、人気の商品となっています。

◆あんぽ柿を味わう◆

あんぽ柿は、ビタミンA、カリウム、食物繊維などを豊富に含んでいます。また、表面は干し柿の歯ごたえがありながら、中身は半生で、トロリとした舌触りと、ほんのりとした甘さが楽しめます。現在は、県内はもとより、北海道から関西まで、各都道府県に出荷されています。ぜひ、これから旬となるふくしまの逸品「あんぽ柿」をご賞味ください。



プレゼントのお知らせ！ (※詳しくはホームページをご覧ください。)

取材先である「伊達みらい農業協同組合」様より、「抽選で」箱入り「あんぽ柿」1kgを10名様にプレゼント！

あんぽ柿はここで買える！ (国道4号線から近くです) 県外への発送も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。



JA伊達みらい
ファーマーズマーケット
〒960-0412
福島県伊達市雪車町19
電話 024(551)2223
FAX 024(584)3335
営業時間 10:00~18:00





ぶくしまをじる

識

輝く！福島県人

沖方 丁さん



輝く！福島県人、第3回目
のインタビューのお相手は、福島市在住の作家、沖方丁（うぶかたとう）さんです。今日でも最も注目を浴びる作家の1人が、なんと福島市に住んでいらっしやいます！新作の執筆や原作映画のプロモーションなどでお忙しい中、ご自宅で創作活動と福島での生活特に福島県でお気に入りのものなどについて伺ってき

— 保科正之公については福島に来られる前から詳しくご存じだったのですか？

正之公が江戸初期の幕政に大きく寄与していたことや、『天地明察』にも出てくる、日本初の国産の暦（貞享暦）にも関わっていたことは知っていました。福島にやってくるまで、執筆のために調べようとはしなかったが、会津に行かなくても福島市にある県立図書館に資料が豊富にあり詳しく調べることができました。

— 正之公についてあまり知らない福島県人が多いようですが。

本当ですか？福島県人ならみんな知っているものと思っていました。白虎隊は有名ですが、白虎隊成立の背景には、初代藩主である正之公が作り上げた文武を奨励する会津藩の風潮があります。戊辰戦争では、ある意味、会津藩対会津以外のすべての日本という構図になりましたが、会津藩がそこまでの力を持ち得たのも、正之公が礎を築いたからです。將軍の補佐でずっと江戸にいた正之公が務めを終えて会津に帰ってきた時は、民衆は道に並んで待っていたそうです。そのぐらい慕われていたんです。会津や福島県の歴史を知ることと、400年間の歴史の概観を知ることができました。皆さんにも会津や福島市の歴史を通して、日本の歴史のおもしろさを知って欲しいです。福島県人であれば、せめて正之公が祀られている土津神社は知って欲しいなあと思います。

— 移住者の方からよく、福島市の風景は外国の風景に似ているという話を聞きます。

今窓から見える安達太良山や吾妻山などの、特に雪をかぶった風景は、少年時代に過ごしたネパールの風景を思い出させてくれます。この風景を見ていると非常に心が安らぎます。仕事部屋から山々がよく見えるのですが、ぼおっと見ていると1時間や2時間あつという間に過ぎてしまい、仕事にならないので、仕事の時は外が見えないように締め切っているぐらいなんです。

— 昔の哲学者や科学者はよく自然からインスピレーションを受けたという話を聞きますが、沖方さんもそういういったことがありますか？

都会は人工物に溢れていますが、人工物は類似品が多く、いちいち判断しなくても生活できてしまいます。その分、脳の活動が低下していくんです。自然に触れ



『天地明察』
角川書店：
1,890円（税込み）
日本初となる国産暦を作りあげた渋川春海の奮闘、苦悩、ロマンが描かれた時代小説。改暦事業をバックアップした人物として会津藩主保科正之公も登場する。

沖方 丁（うぶかた とう）
1977年岐阜県生まれ。父の仕事の関係で、9歳から14歳までシンガポールやネパールで過ごす。早稲田大学在学中に書いた『黒い季節』が第1回スニーカー大賞金賞を受賞し作家デビュー。小説、アニメーション・ゲーム脚本、漫画原作など活動は多岐にわたる。2003年『マルドゥック・スクランブル』で日本SF大賞を受賞。時代小説『天地明察』では2010年、吉川英治文学賞、本屋大賞を受賞した。2002年より、妻の里砂さんの故郷である福島市に在住。





保科正之公を祀る、「土津神社」から「奥の院」(廟所)につらなる参道。一番奥に見えるのが奥の院。保科正之公についての詳細は次頁参照。

とというのはものすごい情報量の中に自分を置くことにあります。山に生えている木にしても、種類が無数にあるし、枝の状態、葉の状態一つとってもみんな違います。昔の哲学者が自然に帰ろうとした理由はよくわかります。例えば山の中で自分が転ばないようにするだけでも、天候、地面の状態、木々の状態など、いろいろな情報を集めて、体と脳を連動させようとしません。都心で感性を狭めさせられながら頑張るよりも一歩自然に踏み入ったほうがいいものができると思います。

— 風景がのどかなこともあってか、会津藩時代にあつた勉学に励むという風潮が少し衰えてしまったという意見があります。

福島県に住んでみて感じたことは、すごく豊かというか安定感があるということとです。一般的には安定すれば勉強する余裕が生じるのが普通なのですが、ちょっと残念ですね。私は高校時代男子校に通いましたが、近くの女子校と馬鹿にしながら記憶があります。やはりそういった交流がないと競争をしないのかもしれない。住みにくい都会で我慢しながら競争に集中する人もいます。こんないい環境なのです。ですから、もつとのびのび勉強してもいいと思います。

とにかくもつたいないです。— 福島県での一番のお気に入りは何ですか？

福島県はとにかく温泉が多いですが、これが一番のお気に入りです。最近はお気になかなか行くことが適いませんが、高湯温泉を始めいろいろ行ってみたいです。人生がっらいと思つたら温泉に行けばいい。1日で治ります。福島の人はおらかでのんびりしていると言いますが、ストレスを発散するものが身近にあるからなのかもしれません。自分も福島の自然や温泉にだいたい癒されているというか影響を受けていると思います。

インタビュを終えて

小説家というもつと固いイメージがありました。実際に会いしてみると本当に気さくな方で、お忙しい

沖方丁さん関連情報

『ほっとする、ふくしま。大交流フェア』メインゲストです！

毎年恒例のイベント、『ふるさと福島大交流フェア』改め『ほっとする、ふくしま。大交流フェア』でも沖方さんがメインゲストとして、知事とのトークショーを行います。当日は『天地明察』のサマイン本の販売もあります。ファンクラブの皆さんは今年もぜひ足を運びください！

(『ほっとする、ふくしま。大交流フェア』の詳細については8頁をご覧ください)

『田舎暮らしの本』にも登場します！

宝島社が発行する、『田舎暮らしの本』(1月号)にも沖方さんが登場し、福島での暮らしなどについて語っていただきます！12月3日(金)発売となりますので、ぜひお近くの書店でお求めください。



(写真は12月号)

『マルドゥック・スクランブル圧縮』上映中

沖方さん原作のSF小説『マルドゥック・スクランブル』の劇場版が、現在上映中です。ぜひ劇場にもお運びください！

- ・テアトル新宿 (東京都新宿区)
- ・ディノスシネマズ札幌劇場 (札幌市)
- ・109シネマズ名古屋 (名古屋市)
- ・シネ・リーブル梅田 (大阪市)
- ・ユナイテッド・シネマキャナルシティ (福岡市)

詳しくは <http://m-scramble.jp/>

最中だったのにも関わらず、どんな質問にも笑顔で答えたいです。今回のインタビューの模様については一部、動画に編集し配信していますので、ぜひこちらをご覧ください！

こちらをご覧ください！ (http://www.pref.fukushima.jp/fni/oeh_ubukatasan.html) 大ファンになってしまおうと請け合いです！



ふくしまをしる
識

ふくしま歴史探訪

保科 正之 公



密かに育つ少年時代

保科正之公は1611年、徳川2代将軍秀忠と秀忠の

沖方丁さんの『天地明察』の中にも登場する保科正之公。4代将軍家綱の後見人として大きな役割を果たし、会津藩初代藩主としても数々の善政を行っていますが、沖方さんのおっしゃるとおり、残念ながら福島県人の間でもまだあまり知られていません。

今回は、県認定ツーリズムガイドで、保科正之公ゆかりの地のガイドを行っている江花俊和さんの協力のもと、稀代の政治家、保科正之公をご紹介します。

乳母の侍女・お静(しず)の子として生まれました。秀忠の正室お江(こう)の方は嫉妬深く側室を置くことも認めなかったため、正之公は身を守るため匿われて育ちました。7歳の時、信州高遠藩主保科正光の養子となり、21歳で養父が亡くなったため高遠藩主となります。

正之公は保科家で受けた恩義を終生忘れず、後に松平姓と葵の紋の使用を許されるも辞退しています。このあたりからも正之公の実直な人柄が偲ばれます。

異母兄

家光からの信頼

3代将軍となった家光は、聡明で慎み深い正之公をとっても重用しました。正之公26歳の時には山形藩主に、その7年後に会津藩主に取

りたてました(以後会津藩は明治維新まで保科・松平家が治めることになります)。そして末期の病床に正之公を呼び、次期将軍となる家綱の後見人を託しました。以後、正之公は会津藩主としてだけでなく幕閣としても活躍するようになります。

江戸城の

天守閣がない理由

江戸城は明暦(めいれき)の大火(※1)の際に天守閣が焼け落ちましたが、再建されませんでした。その理由は正之公が大火の処置のため、他の反対を押し切つて、炊き出しや家屋の再建など市民のための施策を優先したためです。その他、玉川上水の開鑿や末期養子の禁の緩和(※2)など、後世に残る施策をいくつも

※1 明暦の大火

1657年に起きた江戸の大火事。江戸市街の6割が焼け失火のたもとを振りまいた。町娘の振袖が飛んできたため、振袖が風に飛ばれて火事になったと俗説言われる。

※2 末期養子の禁の緩和

相続人のない藩主が死後、養子に認められず、浪人になったり、藩主が50歳以上になったり、藩主がなまじりな原因で下野した。杉家は、断絶されたが、正之公の計らいで救済された。

※3 社倉の設置

飢饉に備えるための備蓄米の制度。これにより会津藩では飢饉による餓死者がなくなつたと言われている。他藩に出していた。

会津精神の祖

会津藩主としても、現在の年金制度にあたる養老扶持の創設、社倉の設置(※3)など、民衆のための善政を行いました。また、武道や学問を奨励し、藩の体制を整備しました。会津藩が幕末まで文武両道の強藩として君臨したその源は正之公にあります。

正之公は最後のお国入りの際、磐梯山の麓(ふもと)の猪苗代湖が見下ろせる場所に立ち寄り墓所と定めま

行っています。しかし、これらの功績があまり語られなかったのは、正之公が後見人としての分をわきまえ、自分の名前のある書類を焼却させたためです。

した。それが現在の土津(はつつ)神社、鶴ヶ城の鬼門の方角から、保科正之公は今も会津を見守っています。



神社の案内板。この写真では内容がわかりにくいので詳しくは次頁を参照ください。



土津神社入口。背の高い木々に囲まれ森厳な雰囲気です。



参考文献『名君の碑』中村彰彦著：文春文庫、『保科正之―徳川將軍家を支えた会津藩主』中村彰彦著：中公文庫、『土津神社と周辺マップ』猪苗代の偉人を考える会発行



江花俊和（えばな としかず）

猪苗代町生まれ。ガイド団体「いなわしろ伝保人会」代表。磐梯山や猪苗代湖周辺の自然ガイドを中心に活動しています。「猪苗代の偉人を考える会」の会長でもあり、来年が保科正之公生誕400年に当たるため、今年から各種事業を展開中です。

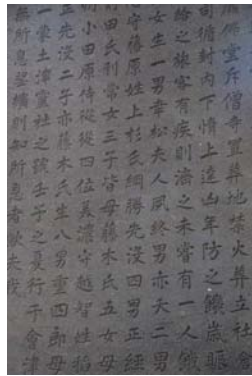
保科正之ゆかりの地めぐり
福島県認定ツーリズムガイド(※)の江花俊和さんと保科正之公が眠る猪苗代町の土津神社の周辺を歩きました。

土津神社
正之公を祀った神社。荘厳華麗な寝殿造りの社殿は「東北の東照宮」と言われました。若松城からは丑寅の方角（鬼門）に位置し、会津を守護していると言われています。戊辰戦争時一時焼失しましたが、明治13年会津の人々により現在の姿に再建されました。
（写真は拝殿）



資料を使って説明中の江花さん

土津霊神碑
正之公の生い立ちと事蹟を刻んだ碑。全高7.6m、重さは30t、22畳分の面積があります。神社の敷地内右手にあります。石切場から12kmの距離を人夫1日2〜3千人で7ヶ月かかって運んだと言われており、当時の会津人の正之公への思いが伝わってきます。
よく見ると、社倉制や正之公の計らいで上杉家を救済した件も書かれています。



奥の院(保科正之廟所)
土津神社拝殿の横から続く、高い杉並木の参道を登ると、奥の院があります。この正面に門扉があり、門の奥には「会津中将源君之墓」の表石が、そのさらに奥の低い丘上の場所に八角形の「土津神墳鎮石」があります。ここで正之公が静かに眠っています。

「土津神墳鎮石」



「会津中将源君之墓」



「いなわしろ伝保人会」の案内所には、猪苗代町の地味がある方々を案内させていただきます。

（問）電話0242-62-2048
（猪苗代観光協会内）
URL：http://www.denpojin.com/

田中三郎兵衛正玄の墓
江戸にいる正之公の代わり、会津藩政を取り仕切っていた家老の墓。正之公が絶大な信頼を寄せていました。正之公が亡くなる数ヶ月前に死去。正之公は磐梯山の麓に自ら眠る場所を定めた後、ここに墓参し、「正玄ここに眠るか、我も近く参るぞ」と言ったそうです。土津神社から徒歩5分ぐらいのところにあります。





12. 19[sun] 11:00-17:00

池袋・サンシャインシティ ワールドインポートマートビル4階

今年度は、名称も新たに福島県のほっとする地域性をアピールすることとしております。

目玉は新たに設けるフードコート。B-1 グランプリ in 厚木にも参戦した「なみえ焼きそば」をはじめ、「喜多方ラーメンバーガー」、「福島円盤餃子」などご当地グルメ満載。福島に来なければ味わうことのできない品物の数々をご堪能ください。

トークショーゲストは4P～5Pでご紹介した「沖方 丁」さん。知事とのトークショーの中でどのような話が飛び出すか興味深々です。

このほか、スパリゾートハワイアンズによるフラ&タヒチアンダンス、金管アンサンブルによる懐かしメロディー演奏、ふくしまクイズショーなどイベント盛りだくさん。

体験メニューや展示、販売コーナーも数多く用意されております。表紙でご紹介した「会津鉄道」さんからは、人気No.1の駅長ばすグッズが登場予定です。この機会にぜひお求めください。毎年恒例の大抽選会ももちろんあります！

会場には初代ウルトラマンも登場します。ぜひ、ご家族、ご友人と会場まで足をお運びください。

>ご案内<

事前申し込み不要、入場無料のイベントとなります。昨年までお送りしておりました「案内状」は今回お送りいたしませんので、ご注意ください。

公式ホームページアドレス
(UIターンホームページの大交流フェアのページ)

<http://www.pref.fukushima.jp/fui/daikouryu/daikouryu2010.html>

**※田舎暮らし相談窓口も
あります**

**ふくしまファンクラブ会員規約の変更
(転居などにより会報が届かなかった
場合の取扱いについて)**

**ファンクラブ
インフォメーション**

入会お申込み時に、会員証とミニダルマのほか、会員規約をお送りしております。

規約の中で、“会報が2回続けて返送となった場合は、サービスを停止(会報発送を中止など)する”こととしておりますが、今回からは、1回目の返送でサービスを停止させていただきます。

会員の方より、住所ご変更の連絡がありましたら、発送を再開いたします。より多くの方々にお送りするため、ご了承ください。

ふるさと暮らしに関するさまざまな情報をお届けする「ふくしま あったか通信～ふくしまふるさと暮らしメールマガジン～」を月1回配信中！
登録はこちらから↓
http://www.pref.fukushima.jp/fui/mail_maga.html

**ふくしまのうまいもん・
すてきなもんプレゼント**

応募された方の中から、抽選で①箱入りあんぽ柿 1kg 1箱 (JA伊達みらい様提供)を10名様、②「ばす」駅長カレンダー(会津鉄道(株)様提供)を10名様にプレゼント！



カレンダー

応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、会員番号、御希望の品(あんぽ柿もしくはカレンダー)、今回の会報の感想などを明記し、下記のあて先へお送りください。

応募締切 12月20日(月)必着
あて先 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16
福島県観光交流課
ふくしまファンクラブ「プレゼント」係

*当選者の発表は賞品の発送に代えさせていただきます。お預かりした個人情報は、賞品の発送などファンクラブに関する事務以外に使用することはありません。福島県個人情報保護条例に基づき、個人情報の目的外利用はいたしません。